

京都市生物多様性プラン（2021-2030） に掲げる施策の取組状況等

1 令和4年度における施策の取組状況

2 令和5年度における施策の取組状況

京都市生物多様性プラン（2021-2030）の目標及び達成項目

目標 1 京都らしさを支える生物多様性の持続可能な利用を図る

達成項目

- ① 京都の文化を支える生物資源を持続的に利用する。
- ② 自然が持つ多様な機能を活用して、都市のレジリエンスの向上を図る。
- ③ 生物多様性を活用した持続可能な観光を促進する。

目標 2 生息・生育地と種の多様性を保全・回復する

達成項目

- ① 多様な動植物が見られる重要な生息・生育地の環境を改善する。
- ② 里地里山の生物多様性の劣化を食い止め、回復を図る。
- ③ 種の絶滅を食い止める。
- ④ 生態系や人の健康、農林業に被害を及ぼす外来生物の拡大を防止するとともに、新たな定着を阻止する。
- ⑤ 海洋汚染につながる河川のプラスチックごみを削減する。
- ⑥ 地球温暖化を緩和する。（温室効果ガス排出量 2013 年度比 40%以上削減）

目標 3 生物多様性に配慮したライフスタイルへの転換を図る

達成項目

- ① 生物多様性に配慮した消費行動が広がっている。
- ② 一人ひとりが自然を身近に感じ、暮らしている。
- ③ 一人ひとりが生物多様性とのつながりを認識している。
- ④ 一人ひとりが生物多様性のために行動している。

目標 4 社会変革に向けた仕組みを構築する

達成項目

- ① 生物多様性に配慮した経済活動を促進する。
- ② 生物多様性保全のための活動を支援する。
- ③ 生物多様性に関する情報の集約・発信力を強化する。
- ④ 生物多様性の現状を把握するための知見を集積する。

目標①施策① 文化を支える生物資源の持続可能な利用〈達成項目①〉

●京の生きもの・文化協働再生プロジェクト認定制度（環境管理課）

(1) 団体 ＜概要＞

京都らしさを支えてきた生きものの保全、再生及び持続可能な利用の取組を実施する団体を認定し、必要に応じて技術的な支援のための専門家を派遣

＜令和4年度実績＞

- ・認定件数：4件（累計32件、236者で取組）

檜扇(ヒオウギ)

準絶滅危惧種
【京都府レッドデータブック2015】

アヤメ科の多年草。8～9月に黄色や橙色の花が咲き、扇状の葉を持つことからこの名がついたとされます。

古来より厄除けの植物とされ、京都では祇園祭の期間中、民家の床の間や玄関に檜扇を飾る習慣があります。

種は黒く、射干玉(ぬばたま)と呼ばれ、和歌で「夜」や「黒」にかかる枕詞「ぬばたまの」は、この種の色に由来するともいわれています。

ぬばたまの 夜のふけゆけば 久木生ふる
清き川原に 千鳥しば鳴く (山部赤人)

『万葉集』 巻6・925

公益財団法人京都市都市緑化協会様より提供いただいた京都由来の自生種を栽培しております



女郎花(オミナエシ)

準絶滅危惧種
【京都府レッドデータブック2015】

日当たりのよい湿性地にはえる多年草。8～10月に、茎の頂部に黄色い小花を平らな房状に咲かせます。

秋の七草として知られており、根や花は生薬になります。

平安時代に成立した紫式部の『源氏物語』の作中、この花は何度も和歌に詠まれています。

女郎花 しきるる野辺を いづことと
ひと夜ばかりの 宿をかりけむ

『源氏物語』 夕霧

公益財団法人京都市都市緑化協会様より提供いただいた京都由来の自生種を栽培しております





福田金属箔粉工業株式会社
「ヒオウギ・オミナエシの保全及び啓発」

日新電機久世工場
雨庭／生物多様性 プロジェクト

目標①施策① 文化を支える生物資源の持続可能な利用〈達成項目①〉

●京の生きもの・文化協働再生プロジェクト認定制度（環境管理課）

(2) 個人 ＜概要＞

令和4年度から、より多くの方に取り組んでいただけるように個人も認定対象として、希少種（フタバアオイ、ヒオウギ等）の生息域外保全、文化を支える生物資源の持続可能な利用を促進

＜令和4年度実績＞

- ・認定者数 計60名（フタバアオイ17名、ノカンゾウ9名、ヒオウギ17名、イワギボウシ17名）
- ・育成相談受付
- ・オンライン写真展示会を開催

【1】



三株頂き、地植えしてその内一株に花が咲きました。丁度、祇園祭の前祭の週に花をつけ、それから二ヶ月、一日置きに咲いては捻れてほんま楽しめました。来庵者に京都産の希少種やでとプチ自慢してます。来年の祇園祭にも咲いてくれるでしょう。
(築庵さん：ヒオウギ)

【2】



夏バテになりかけていましたが、こうして花期に花をつけてくれました。これからも大事に、愛すべき地球の同居者たちの環境を考えながら育てて参ります。きっかけをありがとうございました。
(ヤマシナさん：イワギボウシ)

【3】



育成講習会でいただきましたヒオウギですが順調に我が家のベランダで成長しました。7月12日に開花し、種も取得できました。2枚目の写真は10月27日撮影のもので、新しい芽がわきから出ています。
(伏見区鴨川沿いの住人さん：ヒオウギ)

【4】



7月17日から一鉢めが開花、全鉢が次々咲いてくれました！各々個性があり、現在、一番鉢は株がいつぱいで結実なし。二番鉢は結実し株なし。三番鉢は曲がつて結実、株あり。同じ環境でも個性がでて楽しいです。
(はやしさんです。さん：ヒオウギ)

オンライン写真展示会

目標①施策② 自然の持つ機能を活かした緑と水辺の整備 〈達成項目②〉

●雨庭整備事業（みどり政策推進室）

<概要>

地上に降った雨水を、下水道に直接放流することなく一時的に貯留し、ゆっくり地中に浸透させる構造を持った植栽空間である雨庭を、京都の造園技術力を活かして整備を進め、訪れる人々により楽しんでもらえる緑を創出

<令和4年度実績>

- ・整備箇所：3か所（累計11か所）



九条大石橋交差点四角



東大路仁王門交差点南東角



東本願寺前市民緑地内

目標①施策② 自然の持つ機能を活かした緑と水辺の整備 〈達成項目②〉

●親しみやすい水辺環境の保全・創出（河川整備課）

<概要>

市民と水との関わりを取り戻すため、親しみやすく、良好な水辺環境の保全・創出に努める。

平成22年度から、高瀬川再生プロジェクトに着手し、高瀬川フォーラムでの対話を通じて、地域住民の意見を取り入れた整備を推進

<令和4年度実績>

- ・河川改修工事の実施



上流工事完了区間（三条通～四条通）

目標①施策③ サステナブルツーリズムの推進〈達成項目③〉

●山村都市交流の森や京都一周トレイルなどを生かしたグリーンツーリズム（林業振興課）

<概要>

山村都市交流の森や京北森林公園を拠点に、豊かな自然を生かしたイベントを実施

<令和4年度実績>

- ・イベントの開催：24回



山村都市交流の森イベント「八丁平自然観察会」



山村都市交流の森イベント「木育フェスティバル」



目標①施策③ サステナブルツーリズムの推進〈達成項目③〉

●京都一周トレイル（観光MICE推進室）

<概要>

京都を取り囲む山々に整備された「京都一周トレイル※」を通して、利用者に里山の豊かな自然や歴史ある街なみなどを楽しんでもいただく。

※ 京都一周トレイル：全長約130km（東山～北山～西山：約80km、京北 約50km。全5コース）

<令和4年度実績>

- 京都を取り囲む山々に整備された「京都一周トレイル」を通して、利用者に里山な豊かな自然や歴史ある街なみなどを楽しんでもいただいた。



ホームページ「京都観光Navi」 京都一周トレイル

目標②施策① 重点保全地域における保全強化〈達成項目①〉

●天然記念物深泥池の保全・活用（文化財保護課）

<概要>

国指定天然記念物「深泥池生物群集」について、平成16年9月に京都市が取りまとめた「天然記念物深泥池生物群集保全・活用のための基本方針」に基づき、外来生物（ブルーギル、ブラックバス等）除去、路面等からの排水の遮断や開水域の確保による水環境の保全、希少種や浮島の保護等を実施

<令和4年度実績>

- ・水質のモニタリング調査
- ・浮島等における希少種の保護
- ・外来生物（ブルーギル・ブラックバス・外来タヌキモ等）の除去
- ・国へ意見具申（天然記念物指定範囲の拡大）



深泥池



外来生物の除去（タヌキモ刈込作業）

目標②施策① 重点保全地域における保全強化〈達成項目①〉

●小倉山再生プロジェクト（風致保全課）

<概要>

「京都市三山森林景観保全・再生ガイドライン」に基づき、平成25年度から10年間、小倉山において良好な森林景観を保全・再生するため、京都市や地域組織、地元社寺、企業などの様々な主体が連携し、それぞれの役割分担のもと展開する持続的な森林景観づくりを実施

<令和4年度実績>

- ・植樹活動：1回
- ・維持管理活動：9回



植樹活動の様子①



植樹活動の様子②



参加者全員で記念撮影

目標②施策② 里地里山の保全・回復〈達成項目②〉

●環境保全型農業（農林企画課）

<概要>

環境に配慮した農産物の生産を促進することで、生物多様性保全をはじめとした、多面的機能が発揮される持続可能な農業を推進する。

<令和4年度実績>

- ・取組面積：1,107 a



環境にやさしい農業技術の実証
（化学肥料使用量の削減）



有機農業の取組（アイガモ農法）

目標②施策② 里地里山の保全・回復〈達成項目②〉

●森林総合整備事業（林業振興課）

<概要>

植林から間伐・保育に至る一貫した森林施業を計画的・組織的に実施し、森林の持つ公益的機能の維持増進や地域林業の振興を図る。

<令和4年度実績>

- ・ 間伐・保育等実施面積：185.74ha



間伐作業



植林作業

目標②施策③ 希少種の保全・回復〈達成項目③〉

●特別天然記念物オオサンショウウオ保護事業（文化財保護課）

<概要>

鴨川水系に生息する国の特別天然記念物であるオオサンショウウオ（在来種）とチュウゴクオオサンショウウオ（外来種）の交雑が進み、日本在来種の絶滅が危惧されるため、市内の全水域を対象として、オオサンショウウオのDNA鑑定による在来種、外来種、交雑種への分類を実施。DNA鑑定により、交雑種及び外来種と判定された個体は、別途飼育

<令和4年度実績>

- ・ 鴨川水系、桂川水系の各所において在来種・外来種・交雑種の生息状況をDNA鑑定によって調査し、その過程で捕獲した外来種や交雑種は河川からの隔離を行った。



オオサンショウウオ（在来種）

目標②施策③ 希少種の保全・回復〈達成項目③〉

●国内希少種の域外・域内保全の推進（動物園）

<概要>

国の天然記念物で国内希少野生動植物種のツシマヤマネコや京都府の絶滅寸前種であるイチモンジタナゴについて、飼育下繁殖を推進し、国内及び地域の野生動物の保全につながる取組を強化

<令和4年度実績>

- ・ 第11回「やまねこ博覧会」
- ・ 守れ！イチモンジタナゴ！！プロジェクト2022



イチモンジタナゴプロジェクト取組の様子



やまねこ博覧会での様子

目標②施策③ 希少種の保全・回復〈達成項目③〉

●衛生環境研究所における地域に貢献する生物多様性保全事業（衛生環境研究所）

<概要>

生物多様性に関する協定を締結している武田薬品工業株式会社京都薬草園の全面的な協力を得て、府市協調のもと合築された京都市衛生環境研究所・京都府保健環境研究所1階共有部分のテラスにグリーンインフラを整備し、潤いを創出するとともに希少な植物等を栽培・展示し、市民に開放することにより希少種の保全、自然とのふれあい等、生物多様性保全の一環として取り組む。

<令和4年度実績>

- ・見学受付開始（令和4年12月1日～）



植栽授与式の様子



植栽の様子

目標②施策④ 外来生物対策〈達成項目④〉

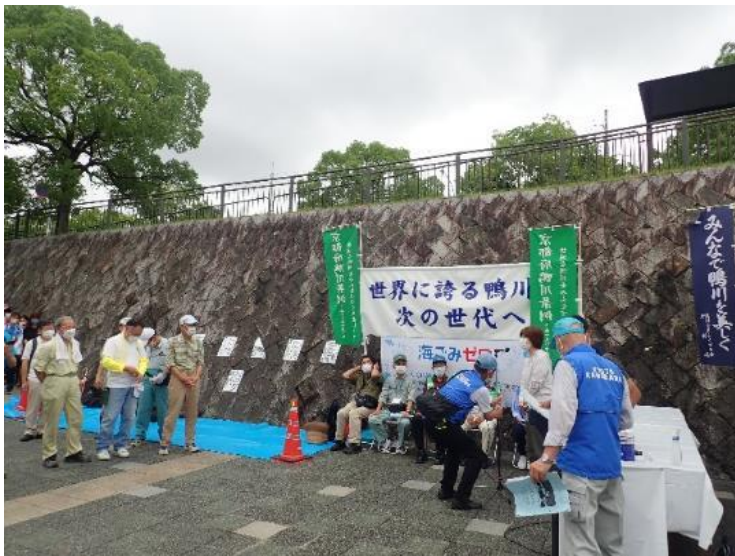
●侵略的外来生物の防除の実施（環境管理課、地域自治推進室、上下水道局水道部）

<概要>

特定外来生物をはじめとした侵略的外来生物（アルゼンチンアリ、アライグマ、オオバナミズキンバイ等）について、防除を実施

<令和4年度実績>

- ・アルゼンチンアリ防除：ベイト剤散布7回、液剤散布1回
- ・アライグマ捕獲頭数：96頭
- ・オオバナミズキンバイ駆除活動への参加：1回
- ・オオハンゴンソウ駆除活動への参加：1回
- ・オオバナミズキンバイ等駆除：1,270㎡(16t)（琵琶湖疏水の取水口がある大津市での駆除実績）



オオバナミズキンバイ駆除活動



オオハンゴンソウ駆除活動

目標②施策⑤ プラスチックごみへの対策〈達成項目⑤〉

●給水スポット等の設置（資源循環推進課）

<概要>

京都市施設等へ「給水スポット」として水道直結式の給水機を設置するとともに、地域のイベント等の会場にも水道直結式の給水機を設置し、ペットボトル等の使い捨てプラスチック製の飲料容器の削減を目指す。

<令和4年度実績>

- ・給水機設置数：累計142か所
- ・イベント用給水機設置件数：9件



イベント用給水機（京都学生祭典in岡崎公園）



給水機（市役所本庁舎）

目標②施策⑥ 地球温暖化に対する緩和策と適応策の推進〈達成項目⑥〉

●京都市地球温暖化対策計画〈2021-2030〉の推進（地球温暖化対策室）

<概要>

「2050年CO2排出量正味ゼロ」に向けて、2030年までに温室効果ガス排出量を2013年度比46%削減することを中間目標に掲げ、ライフスタイル・ビジネス・エネルギー・モビリティの各分野について、CO2が排出しないものへ転換していくことに加え、森林・農地などの吸収源対策などに取り組むとともに、気候変動による影響に対応していく適応策についても推進する。

<令和4年度実績>

- ・2021年度温室効果ガス排出量：609.3万トン
（基準年度（2013年度）比22.3%削減）

ライフスタイル

- 環境学習プログラム
- 222エコ学区での地域活動



- 脱炭素ライフスタイル推進

使用済衣服の回収&
循環プロジェクト等



ビジネス

- 大規模排出事業者：
排出削減計画の目標削減率を
約2倍に(2023~)
- 中規模事業者：
「エネルギー消費量等報告書制度」
を創設(2022~)

エネルギー



- 300m2以上の建築物再エネ設置義務
- 太陽光発電上乗せ設置促進補助
（重点対策加速化事業）
- 太陽光パネルの共同購入、PPA促進
- 再エネ需要の促進
- 住宅の再エネ地産地消・地域循環推進事業

 京都☉円ソーラープラットフォーム
KYOTO PHOTOVOLTAICS PLATFORM

モビリティ

次世代自動車等について

- 大規模排出事業者：
導入義務を強化(2023~)
（新車購入時2/3以上）
- 自動車販売事業者：
販売実績報告義務(2022~)
- 公民連携でのEV利用環境
の整備

 KYOTO CITY OPEN LABO

目標②施策⑥ 地球温暖化に対する緩和策と適応策の推進〈達成項目⑥〉

●京都気候変動適応センター（地球温暖化対策室）

<概要>

適応策の推進に向けて、京都府、総合地球環境学研究所との連携のもと、令和3年7月に京都気候変動適応センターを設置し、気候変動影響に関する情報収集や分析等を行う

<令和4年度実績>

- ・ 京都府内の1989年から2020年の気象・気候データと水稻の収量などのデータを収集・分析し、水稻への京都特有の気候変動影響を評価
- ・ 京都における熱中症の発生状況を把握するため、京都府内の熱中症による救急搬送者のデータと気象・気候データを収集し、分析



京都気候変動適応センター
Kyoto Climate Change Adaptation Center

機能のイメージ

情報基盤機能（基本機能）

研究教育機能



コーディネート機能



成果の発信（センター通信等）

目標③施策① エシカル消費の推進〈達成項目①〉

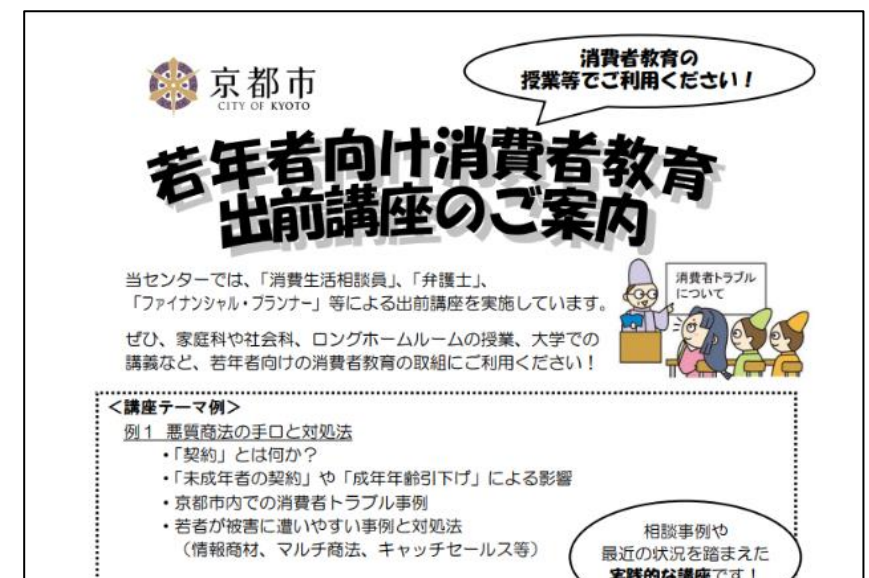
●エシカル消費の普及促進（消費生活総合センター）

<概要>

人や社会・環境・地域に配慮した消費行動をすることにより、公正で持続可能な地域社会づくりを進めていこうとする「エシカル消費（倫理的消費）」の理念を、事業者等と連携して広く紹介・普及し、市民一人一人の主体的な実践につなげる。

<令和4年度実績>

- ・「エシカル消費」普及啓発ホームページ及びSNSによる情報発信
- ・大学での消費生活講座における「エシカル消費」をテーマとした講義の実施
- ・待鳳小学校6年生58名に対する出前講座の実施
- ・京都生活協同組合との「『エシカル消費』普及促進に係る連携に関する協定」に基づく取組



出前講座

目標③施策① エシカル消費の推進〈達成項目①〉

●ホームページ「京・食ねっと」での総合的な情報発信（健康長寿企画課）

<概要>

行事食やおばんざい等の京の伝統に根差した料理レシピ等の紹介や、健康づくり、地産地消の推進、環境負荷の軽減、食文化の継承、食品の安全性など、ホームページで食に関する様々な情報発信を行い、家庭や地域における主体的な食育の推進を支援

<令和4年度実績>

- ・ ページビュー数：239,488件



ホームページ「京・食ねっと」

目標③施策② 自然とのふれあいや学習の機会の充実〈達成項目②③④〉

●さすてな京都での「自然との共生」の学習プログラム（南部クリーンセンター）

<概要>

南部クリーンセンターに併設された環境学習施設「さすてな京都」では、ビオトープに京都ゆかりの植物を育成するとともに、ビオトープを活用した学習プログラムや生物多様性に関連する学習プログラムを実施

<令和4年度実績>

- ・来館者数：37,988名
- ・子ども向け学習プログラム：155回、2,727名参加



ビオトープ



イベント「かいぼり」

目標③施策② 自然とのふれあいや学習の機会の充実〈達成項目②③④〉

●事業者等との連携による食育授業（教育委員会学校指導課）

<概要>

事業者や団体と連携し、市立小学校において野菜の栽培等を通じて、子どもたちに食物を育てる大変さや喜びを体験させ、食に対する興味・関心を高めさせることを目的として、食育授業を実施

さらには、事業者の農場を活用した栽培・収穫体験も実施

<令和4年度実績>

- ・食育授業実施校：計28校、1,543名
- ・農場体験：計1校、98名



小学校出前板さん教室



京都青果合同株式会社等との連携による食育授業

目標③施策③ 生物多様性の学びの拠点の充実〈達成項目②③④〉

●いのちかがやく☆4園館連携事業（動物園、青少年科学センター、環境管理課）

<概要>

動物園、植物園、京都水族館及び青少年科学センターでは、かけがえのない自然環境の次世代への継承及び体験・啓発を目的として、「きょうと☆いのちかがやく博物館」として連携協定を締結し、一年を通して様々な交流連携事業を展開

<令和4年度実績>

- ・ 令和4年4月 動物園「野生動物学のすすめ」
- ・ 令和4年5月 動物園・植物園連携シンポジウム「京・森・生き物探検隊」
- ・ 令和4年10月 植物園「いきもの広場」
- ・ 令和4年10月 同志社大学との共催シンポジウム「生き物を伝える人びと」
- ・ 令和5年2月 青少年科学センター「サイエンスフェスティバル」



動物園「野生動物学のすすめ」



青少年科学センター「サイエンスフェスティバル」

目標④施策① 生物多様性に配慮した企業活動の促進〈達成項目①〉

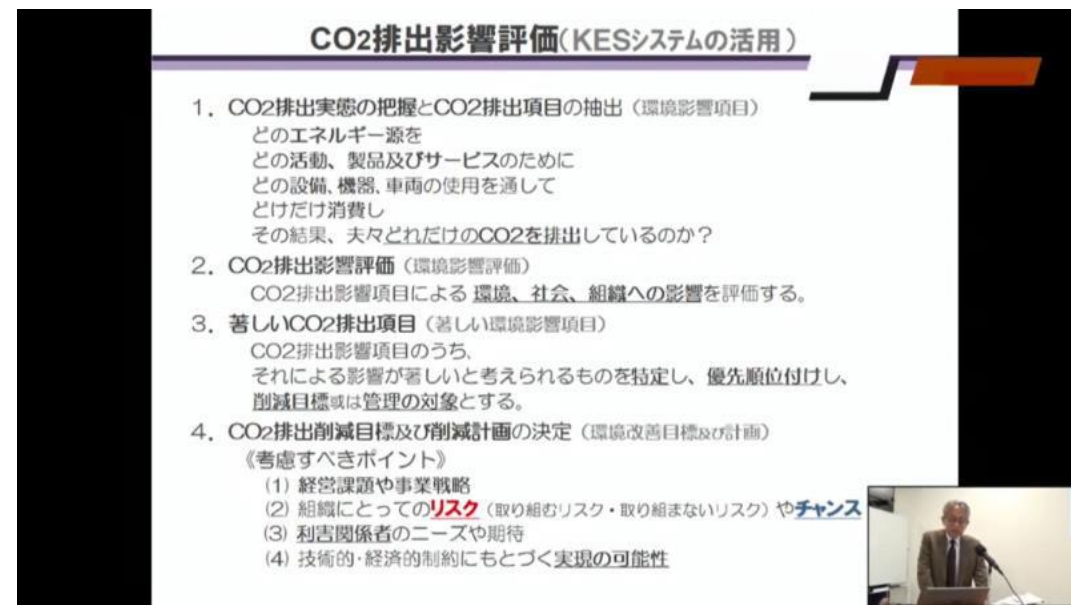
●KES認証取得の普及促進（環境管理課）

<概要>

KESは、中小企業にも取り組みやすい京都発祥の環境マネジメントシステムの規格。地球温暖化対策や生物多様性保全など、事業者の自主的な環境保全活動を推進するため、KESの解説や登録事業者による取組事例発表等を行うセミナーの開催等を通じ、市内事業者のKES認証取得の普及促進を図っている。

<令和4年度実績>

- ・ 令和5年3月 KES認証取得普及促進に向けた環境マネジメントセミナーの実施
受講者99名（対面11名、オンライン88名）



セミナーの様子

目標④施策② 公共施設・事業における配慮〈達成項目①〉

●京エコロジーセンター屋上のビオトープ活用（地球温暖化対策室）

<概要>

京エコロジーセンターでは、屋上にあるビオトープを、生きものと人とのつながりを学ぶ場として、ボランティアと共に維持・管理

<令和4年度実績>

- ・ 屋上にあるビオトープを、生きものと人とのつながりを学ぶ場として、ボランティアと共に維持・管理



屋上ビオトープ



エコそらキッズ2022「ビオトープで生きものの探し」

目標④施策② 公共施設・事業における配慮〈達成項目①〉

●「京都市公共建築物脱炭素仕様」に基づく緑化等の推進（公共建築企画課）

<概要>

公共建築物の整備においては、環境に配慮した設計仕様として「京都市公共建築物脱炭素仕様」を策定し、建築物の高断熱化や省エネ化、緑化等に取り組み生物多様性に寄与

<令和4年度実績>

- ・太陽光発電設備の導入（12施設、計191.8kW）



京都市中央卸売市場 新水産棟

目標④施策③ 生物多様性保全のネットワーク形成〈達成項目②〉

●京都市生物多様性プラン(2021-2030)の推進に係る活動交流会（環境管理課）

<概要>

生物多様性保全に係る事業者、活動団体等の皆様による取組を推進するとともに、市民の皆様の生物多様性保全に係る理解を深め、行動を促進することを目的に、OECMを主なテーマとして、事業者及び活動団体等の皆様による取組内容等を共有し、参加者同士が交流する活動交流会を開催

<令和4年度実績>

- ・令和4年12月 参加者116名（会場62名、オンライン54名）



講演会



意見交換

目標④施策③ 生物多様性保全のネットワーク形成〈達成項目②〉

●京の生物多様性担い手宣言制度（環境管理課）

<概要>

生物多様性保全の担い手を増やすとともに、生物多様性に関する理解の促進や、行動に移していただく機会とするため、様々な主体が取り組める行動例を示し、できる取組を宣言してもらうとともに、宣言内容に応じた情報発信を行い、「担い手を必要としている主体」と「行動したい人」とのマッチングを図る。

<令和4年度実績>

- ・ 宣言数：3,572件
- ・ 情報提供メールの配信回数：92 回



目標④施策④ 情報の集約・発信〈達成項目③〉

●ポータルサイト「京・生きもののミュージアム」（環境管理課）

<概要>

生物多様性に関する知見を集約・発信する「バーチャルミュージアム機能」と、多様な活動事例や活動イベント等を集約・発信し、主体同士又は主体と活動のつながりを促す「プラットフォーム機能」を充実させたポータルサイトを令和4年4月1日公開し、当該ポータルサイトを、生物多様性に関する情報の収集・発信の場をはじめ、保全活動を行う事業者及び団体と活動に興味がある人をつなぐ場として運営

<令和4年度実績>

- ・訪問回数：2,188回／月



ポータルサイト「京・生きもののミュージアム」

目標④施策⑤ 知見の集積〈達成項目④〉

●京の生きものの生息調査（環境管理課）

<概要>

市民参加のもと、市内で見られる生きものの生息状況を把握するとともに、京都市の緑や水辺の豊かさ等の自然環境の現状を評価するために実施

令和4年度からは、「生きものを通して、四季の変化を感じていただく」ため、実施期間を通年としている。

<令和4年度実績>

- ・ 4種を対象とした報告数：224件



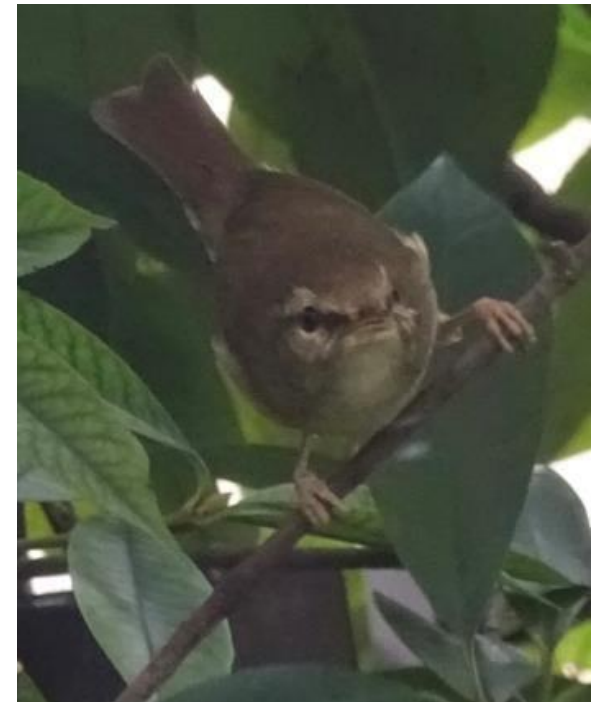
ツバメ



ハグロトンボ



セミ



ウグイス

目標①～④ きょうと生物多様性センター

<概要>

京都の伝統・文化や暮らしを支えてきた「京都の自然の恵み」を守り、次世代につないでいくため、令和5年4月1日に「きょうと生物多様性センター」を設置。

同センターでは、本部事務機能やコーディネートなどを担う本部オフィス、ネットワーク形成や情報発信などを行う交流オフィス及び生物多様性情報の集積・データベース化などを行う情報オフィスの3拠点を設け、「収集」「利活用」「継承」をテーマに、効果的かつ持続可能な生物多様性保全の取組を推進

<令和4年度実績>

- ・令和5年3月 京都府と「生物多様性保全の推進に関する包括連携協定」を締結



本部オフィス：京都府立植物園会館



交流オフィス：左京区役所



情報オフィス：京都府立大学

目標①～④ 事業者等との連携

●武田薬品工業株式会社京都薬用植物園

<概要>

令和3年度に締結した「生物多様性保全に関する協定」に基づき、同園を活用した取組の更なる展開を目指し、京都に自生する希少な植物の保全や自然観察会の実施など、連携した取組の実施

<令和4年度実績>

- ・京の生きもの・文化協働再生プロジェクト認定制度個人版において生息域外保全を行う希少種の苗の育成（ヒオウギ、ノカンゾウ、クリンソウ、イワギボウシ）を同植物園において実施
- ・同植物園における自然観察会等の実施に向け、京都市立修学院小学校の教員が視察を実施
- ・未来のサイエンティスト養成事業（京都市青少年科学センター主催）夏期講座の実施
- ・同植物園における地元向けイベント情報を京都市立修学院小学校において発信
- ・雲ヶ畑・足谷人と自然の会と連携し、同植物園内に保全ゾーンを整備、同団体の活動紹介を実施
- ・さすてな京都企業連携月間 環境教育プログラムの実施
- ・京都市衛生環境研究所における生物多様性を意識した植栽の設置



京都市衛生環境研究所における生物多様性保全の取組との連携（左：植栽の設置、右：パネル展示）

目標①～④ 事業者等との連携

●その他

<概要>

京都市の生物多様性保全に係る取組を強化し、持続的な推進を図るため、様々な事業者・団体との連携を進めている。

<令和4年度実績>

①日本マクドナルド(株)

生物多様性について考えて、行動する産学公連携プロジェクト「トレイマットデザイン コンテスト」について、日本マクドナルド(株)、京都市立芸術大学及び本市の共催で実施

②阪急電鉄(株)

令和4年8月 「洛西高架下こども大学～らくさいサンゴ礁ラボ～」を実施（参加者数：合計80名）

③NPO法人自然観察指導員京都連絡会

令和4年7月 駆除活動に参加（参加者数：62名）

④鴨川を美しくする会等

令和4年7月 駆除活動に参加（参加者数：102名）



洛西高架下こども大学
～らくさいサンゴ礁ラボ～

各推進プロジェクトの取組状況

(1) チマキザサの再生



概要	「チマキザサ再生委員会」と協働し、絶滅の危機に瀕する花脊・別所地域のチマキザサ再生を推進する。
取組	・チマキザサ再生事業の実施（ササ再生状況のモニタリング、再生加速のための移植試験、ササ生育環境管理、活動資金確保、人材・組織マネジメント及び次世代の担い手確保 など）
R4実績	・ポータルサイトで情報発信（活動内容）：令和4年7月 ・チマキザサ採取の体験会の開催：令和4年9月、10月 ・チマキザサの移植イベントの開催：令和4年11月 ・武田薬品工業(株)京都薬用植物園の生育状況の確認：令和4年11月 ・生育不良地へのチマキザサの移植：令和4年12月 ・武田薬品工業(株)京都薬用植物園への移植：令和4年12月



チマキザサ採取の体験会



チマキザサの移植



(2) 東山の森づくり

概要	「京都伝統文化の森推進協議会」と協働し、東山等において多様な動植物が見られる生物多様性豊かな森づくりを推進する。
取組	・多様な主体（企業等）の参画を促す手法の検討（①自然観察会、②動物相の簡易調査、③市民と協働した森づくり、④周知啓発の強化）
R4実績	・「京都三山の森づくり（将軍塚の森づくり、清水山の森づくり）」に参加及びポータルサイトで情報発信：令和4年11月 ・今後の動物相の簡易調査の基礎情報を得るための試行的な調査の実施（京都市予算で調査）：令和5年1月～3月 ・ポータルサイトで情報発信（活動内容）：令和5年2月

(3) 西山の自然環境保全

概要	小塩山及び大原野森林公園における保全活動団体と協働し、希少な動植物が生息する西山の自然環境保全を推進する。
取組	・森林保全活動への参加促進
R4実績	・情報発信（小塩山の手入れ作業の募集）：令和4年9、10月



(4) 「宝が池の森」の保全・再生・利活用

概要	「『宝が池の森』保全再生協議会」と協働し、宝が池とその周辺の森の保全・再生・利活用に取り組む。
取組	・ 今後の行動計画、ロードマップ等の検討 ・ モニタリングや森林管理などの森づくりの実践
R4実績	・ 情報発信（イベントへの参加募集）：令和4年6、7、9、10月 ・ ゾーニングWGに出席（ゾーンシステムの検討）：令和4年10月、12月 ・ 森づくりWGに出席（野鳥の森現地調査）：令和4年10月

(5) 天然アユなどの川の恵みを豊かにする活動推進

概要	「京の川の恵みを活かす会」等と協働し、アユ等が生息できる環境作りや持続可能な利用を推進する。
取組	・ ネットワークづくりによる多様な主体の参画促進
R4実績	・ 情報発信（イベントへの参加募集）：令和4年6、10月 ・ エコ学区事業（鴨川アユの道を探せ）に参加：令和4年10月 ・ 京の川の恵みを活かす会の活動に参加（鴨川の落差工の魚道解体作業）：令和4年10月

目標①～④ 推進プロジェクト



(6) 環境保全型農業の推進

概要	環境に配慮した農産物の生産・消費を促進することで、生物多様性保全機能をはじめとした、多面的機能が発揮される持続可能な農業を推進する。
取組	・ 学校の参画による取組の促進
R4実績	・ 情報発信（イベントへの参加募集）：令和4年6月



イベントの情報発信



(7) 「京都らしさ」を支える生物資源調査

概要	京都らしさ（伝統、文化、産業、景観等）を支える生物資源の現状等を把握し、保全・回復の取組を講じることで、生物資源の持続可能な利用を図る。
取組	「京都らしさ」を支える生物資源調査結果の公表
R4実績	・ ポータルサイトにおいて調査結果を公表：令和4年9月

1 令和 4 年度における施策の取組状況

2 令和 5 年度における施策の取組状況

きょうと生物多様性センター

<目的>

京都の伝統・文化や暮らしを支えてきた「京都の自然の恵み」を守り、次世代につないでいくため、生物多様性に関する情報を正確かつ継続的に把握し、収集された知見を基に、生物多様性に係る理解促進や担い手育成、地域や企業の保全活動の支援等を行うとともに、保全に係る様々な主体の連携・協力関係を構築し、効果的かつ持続可能な生物多様性保全の取組を展開

<運営>

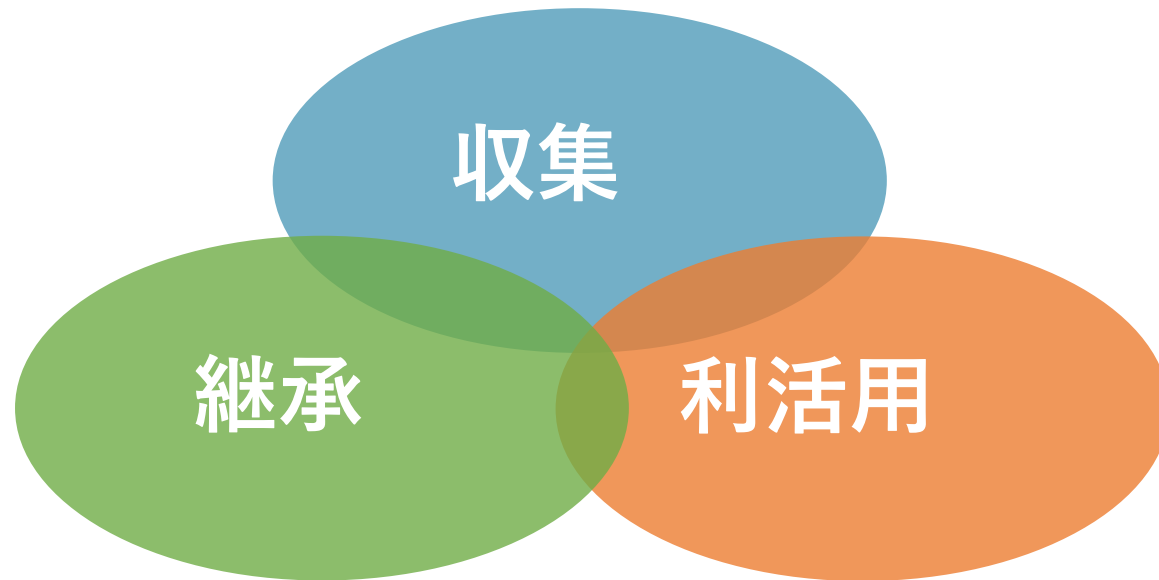
京都府と京都市の協働で設置し、学識経験者、保全団体、経済団体、大学等研究機関、京都府及び京都市で構成するきょうと生物多様性センター運営協議会が運営

- ・名誉センター長 山極 壽一氏（総合地球環境学研究所長）
- ・センター長 湯本 貴和氏（京都大学名誉教授）

きょうと生物多様性センター

<センターの機能>

- ①生息分布などの生物多様性情報の集積・データベース化
- ②各主体における標本・文献等資料の保有状況の把握



- ⑨資料や情報を活用した環境学習、担い手育成及び情報発信
- ③多様な主体のネットワーク形成
- ④多様な主体との連携による保全活動のコーディネート
- ⑤多様な主体の保全活動や事業の際の環境配慮などに関する相談対応
- ⑥民間企業等に対する情報提供と専門知識に基づく助言・提案
- ⑦民間企業や保全団体等の保全活動や啓発等の支援及び受託
- ⑧生物多様性に係る調査・研究

きょうと生物多様性センター

<センターの拠点>

●本部オフィス：京都府立植物園会館
(本部事務機能、コーディネート機能 等)

●交流オフィス：左京区役所
(ネットワーク形成、情報発信機能 等)

※ 交流スペースを設け、月・水・金曜日の
午後 1 時～午後 5 時に開所
(祝日・休日・年末年始を除く)

●情報オフィス：京都府立大学
(生物多様性情報の集積・データベース化機能 等)

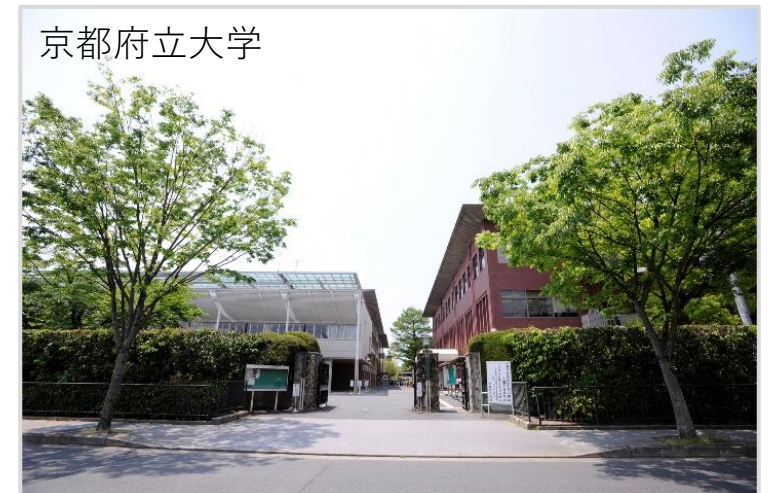
京都府立植物園会館



左京区役所



京都府立大学



きょうと生物多様性センターの取組状況

5月

7月

8月

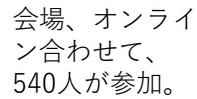
9月

10月

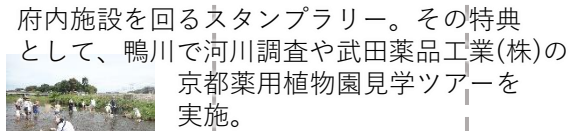
11月

12月

設立記念シンポジウム



スタンプラリー

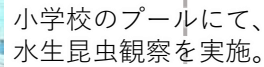


きょうと☆いきもの
フェス！2023

生物多様性に関わる京都府内の約50の団体・企業・個人等が大集結。延べ、5,000人が参加。

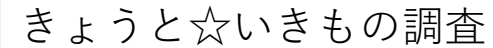


葵小学校
いきもの観察



身近ないきものの相談会

夏休みに自由研究相談会を実施。



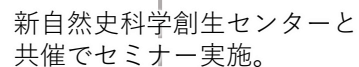
住民参加型の
生物調査を開始。
第一弾として
ドングリ調査中。



企業連携：
(株)スクリーンHDの
田んぼで自然観察会



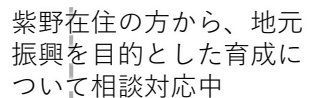
セミナー開催



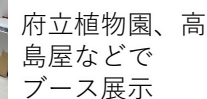
(公財)公益財団法人日新電機
グループ社会貢献基金、府市
とパートナーシップ協定



ムラサキの育成



4園館連携「きょうと☆
いのちかがやく博物館」協力



シンポジウム



きょうと生物多様性パートナーシップ協定制度の創設

<概要>

京都府・京都市が協働して、生物多様性の保全等に関心を持つ民間企業と、京都府・京都市の事業趣旨に即した保全活動を行う団体とのマッチングを図る制度

<実績>

- ・制度の創設（令和5年9月）
- ・府、市、（公財）日新電機グループ社会貢献基金、きょうと生物多様性センターの4者で、京都府域の生物多様性保全を推進するため第1号となる協定を締結（令和5年10月）

【協定に基づく保全活動】

- ・日新電機(株)と、京丹後市の「琴引浜」の鳴き砂と周辺の自然環境を保全している団体との協力関係のコーディネートによる海浜生態系を守る活動を支援



協定式の様子



琴引浜での活動

自然共生サイト

<制度の概要>

生物多様性国家戦略 2023-2030における30by30目標（※）の実現を目指すため、国において、民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域を「自然共生サイト」として認定するとともに、有志の企業・地方公共団体・団体等による「生物多様性のための30by30アライアンス」を通じて、30by30目標に係る先駆的な取組を促進

（※）2030年までに陸と海の30％以上を健全な生態系として効果的に保全する目標



<京都市の取組>

- ・京都市生物多様性プラン(2021-2030)の評価指標の一つに「自然共生サイト（OECM）に関する評価指標」を設定
- ・「生物多様性のための30by30アライアンス」に参加（令和5年7月）
- ・きょうと生物多様性センターによる民間企業や保全団体等の支援
- ・認定促進に向けた庁内の関連部署への働きかけ

<京都市域における認定>

- ・武田薬品工業(株)京都薬用植物園（令和5年10月）
サイト名：武田薬品工業株式会社京都薬用植物園内の樹木園



武田薬品工業(株)京都薬用植物園

京都市生物多様性庁内連絡会議

<概要>

京都市生物多様性プランに関連する本市の施策や取組状況等について、情報を共有するとともに、相互に連携し、全庁により横断的にプラン推進を図る。

<実績>

令和5年度第1回会議の実施（令和5年12月25日）

（議題）

- ・京都市生物多様性プラン（2021-2030）に掲げる施策の取組状況及び評価状況
- ・自然共生サイトへの認定に向けて
- ・外来生物法の改正及び本市の対応

（報告）

- ・きょうと生物多様性センターの取組状況



会議の様子